F 2 ―国

〔3月日程〕

二〇二二年度入学試験

国語〔現代文・古文〕試験問題

注意事項

一、指示があるまで開かないこと。

二、問題は一〇ページである。万一、落丁などがある場合は直ちに申し出ること。

三、解答用紙は**解答用紙A**（マークシート）と**解答用紙B**（記述式）の二種類である。

四、解答はすべて**解答用紙**に記入すること。

五、**解答用紙には座席番号、氏名を忘れずに記入すること。**

六、**解答用紙A**（マークシート）の記入にあたっては、次の事項について注意すること。

・**HBの鉛筆またはマークシートペン**を使用すること。（シャープペンシルは不可）

・解答用紙に記載の「**記入上の注意**」をよく読んでから記入すること。

七、試験問題は持ち帰ること。

一　次の文章は、平貞文（たいらのさだふん）を主人公とした歌物語、『平中物語』の一節である。よく読んで、後の問に答えなさい。

また、男、いささか人に、いは〔ア〕れさわがるることありけり。そのこと、いとものはかなきそらごとを、(A)＿＿＿＿あためける（注1）人の、作りいでて、いへ〔イ〕るなりけり。さり〔ウ〕ければ、かう心うきことと、思ひなぐさめがてら、(B)＿＿＿＿心もやらむと思ひて、(C)＿＿＿＿津の国（注2）の方へぞいきける。しのびて、知る人のもとに、「かうてなむまかる。うきことなど、慰みやする」といへりければ、

世のうきを思ひながすの浜ならば〈a〉＿＿＿＿われさへともにゆくべきものを

とある返し、

Ⅰうきことよ(D)＿＿＿＿いかで聞かじと祓（注3）へつつ違へながすの浜ぞいざかし

とて、いにけり。

いきつきて、長洲の浜にいでて、網引かせなど、遊びけるに、うらうらと、春なりければ、海いとのどかになりて、夕暮になるままに、いつの間にか思ひけむ、うかり〔エ〕し京のみ恋しくなりゆきければ、思ひながめつつ、心のうちにいは〔オ〕れける、

Ⅱはるばると見ゆる海べをながむれば涙ぞ袖の潮と満ちける

とぞながめくらしける。

さて、その朝に、さなむありしと、文に書きて、京の、〈b〉＿＿＿＿かのまかりまうしせし人のもとに、いひたりける。女、

Ⅲなぎさなる袖まで潮は満ち来とも葦火焼（注4）く屋しあれば干ぬらむ

などなむ、いひおこせたりける。さりければ、久しくも長居で、帰り来にけり。

注1　あためける人――貞文を悪く言うような人。「あた」は敵(かたき)。
注2　津の国――摂津の国。今の大阪府と兵庫県の一部。
注3　祓へ――海岸や川などの水辺で、陰陽師(おんみょうじ)が災厄を人形(ひとがた)に移しかえて、それを水に流し、罪や穢(けが)れを取り除くこと。
注4　葦火焼く――摂津の国の難波は葦の名所で、人々は葦を焚(た)いて燃料にした。

問一　傍線部(A)～(D)の解釈としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

(A)　1　たわいない　2　むなしい　3　頼りない　4　かいがない
(B)　1　心得がある　2　気が遠くなる　3　不愉快な　4　用心すべき
(C)　1　気遣う　2　気晴らしをする　3　思いを届ける　4　注意する
(D)　1　どうせ　2　なぜか　3　どうして　4　どうにかして

問二　波線部〔ア〕～〔オ〕の文法的説明としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

1　自発の助動詞　2　可能の助動詞　3　受身の助動詞　4　上二段動詞の一部　5　尊敬の助動詞
6　形容動詞の一部　7　完了の助動詞　8　副詞の一部　9　ラ変動詞の一部　10　形容詞の一部

問三　二重傍線部〈a〉と〈b〉の解釈としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

〈a〉　1　私だけがあなたと一緒に行くべきなので。
　　2　私までお連れになっては困りますので。
　　3　私さえ一緒にいなければよかったのに。
　　4　私だって一緒に行きたいものですのに。

〈b〉　1　別れの挨拶を申し上げた人のもとに、
　　2　宮中を退出なさった人のもとに、
　　3　私のうわさを立てた人のもとに、
　　4　津の国にお下りになった人のもとに、

問四　Ⅰの歌には掛詞が用いられているが、それは第何句にあるか。次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

1　第一句　　2　第二句　　3　第三句　　4　第四句　　5　第五句

問五　ⅡとⅢの歌に関する、次の解説文の［a］～［h］に入る語を、それぞれ後の選択肢の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

Ⅱは男の歌で、「物思いをしながら海を眺めていると、涙がまるで夕潮が満ちるように袖を濡らしてしまった」という意である。「［a］」という表現には女との距離の遠さを嘆く気持ちが込められている。

それに対するⅢの女の歌は、「渚にいる人の袖まで潮が満ちるように涙にくれたとおっしゃいますが、摂津の国には有名

な「葦火焼く屋」があると言いますから、袖の涙も［ b ］という意味。「葦火焼く屋」という表現は「難波人葦火焼く屋の煤してあれど己が妻こそ常めづらしき」（難波の人が葦で火を焚く家のように煤けてはいても、自分の妻はいつも［ c ］よ）という万葉集の歌による。

男が女との距離の遠さを嘆いて愛情を訴えるのに対して、女は「葦火焼く屋」から「己が妻」を連想させ、そちらにも女性がいて、ちっともさみしくなどないのではありませんかと、恨み言を言ってきた。だから、男はすぐに女の暮らす［ d ］に帰ったのである。このように平安時代の男女の贈答歌においては、男が自分の思いを直接的に訴えるのに対して、女は［ e ］し、切り返すように応じるのが普通である。

ところで、平中物語と同じジャンルの［ f ］は、東国に向かう男たちが武蔵と下総の境の隅田川にやってきた場面を次のように描いていた。「その河のほとりにむれゐて、思ひやれば、［ g ］遠くも来にけるかな、とわびあへりける に、渡し守、『はや船に乗れ、日も［ h ］』といふに、乗りて渡らむとするに、みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず」。Ⅱの歌も、海を眺め、京ばかりが恋しくなった男の詠んだ歌であり、その状況や心情は右の隅田川での男たちのそれとても近い。このように、平中物語は他の作品との連想関係を生かしながら、物語を展開しているのである。

a　1　はるばると　　2　ながむれば　　3　涙ぞ袖の　　4　潮と満ちける

b　1　どうして乾いているのでしょうかね　　2　もう家で干されているのでしょうね
　　3　どうして干さないのでしょうかね　　4　もうとっくに乾いているでしょうね

c　1　頼もしい　　2　色白だ　　3　かわいい　　4　懐かしい

d　1　津の国　　2　長洲の浜　　3　難　波　　4　京

e　1　同　情　　2　反　発　　3　恐　縮　　4　許　容

f　1　宇津保物語　　2　竹取物語　　3　伊勢物語　　4　源氏物語

g　1　かぎりなく

h　1　叶ひぬ

2　いつの間に

2　昇りぬ

3　年を経て

3　暮れぬ

4　さみしくも

4　照りぬ

二　次の文章をよく読んで、後の問に答えなさい。

動物たちが風景に内在する。その切り口はなんでもないように見えながら、思想としての実質をもつ。ばくぜんとした常識に対抗する独創であった。

『明治大正史世相篇(注1)』の「風光推移」には、ネズミやヘビ、イヌ、ネコ、ハト、スズメ、コウモリ、オオカミといった、じつにさまざまな動物たちが登場する。それは、志賀重昂(注2)以降われわれの時代にまでつづく風景概念の山水風土中心主義に対し、たしかに新鮮な効果をもつ。風景が、ともすれば人間をも排した、生物なき景観になりはててしまっていることに対し、介入的ですらあった。

ここでは、風景という概念はかなり意識的に、しかも特有の主張をこめて使われている。たとえば「風光推移」のむすびの文章に、野鳥・野獣という名でくくられた生き物たちは、絶滅を［　A　］るはるか以前に、すでにわれわれの「風景」のなかにいなかったのである、とのべている。そこで使われた風景の語にこめられているのは、動物愛護の詠歎ではない。むしろわれわれの風景概念の存立の形態をこそ分析すべきなのだというヨウセイ①である。

すなわち、動物たちは風景画の一素材ではなく、風景を構成する主体（もしくは主体として抽象しうる関係性）の重要な一部であった。そうした論理に、われわれの近代が見失ったかもしれないある思想性を感じる。この風景論は生態系そのもののひろがりにおいて、風景をつくる主体性を構想した、との解釈が可能だからである。かつて一時代をつくった風景論のように地表の形がエッセンシャルな実体として［　B　］るかわりに、柿や杏や椿といった植物、家禽や野獣と人間とのかかわりが、テーマ化される。そうした主体たちが風景をなしてゆく過程こそが主題化される。

【　イ　】、この歴史社会学者の風景論は、土地を含めた空間利用のしかたに注目し、動物たちの排除がけっして狩猟家と鉄砲だけの罪ではない。ようするに彼らの生活を不可能ならしめるような人間の土地利用があったと説き、また「野鳥を疎外した大建築物」に言及した。それはハード面での空間利用を重視しているというより、近代にすむ人間社会のソフト面での喪失を指摘

するものであったのではないか。

【　ロ　】、ひとは動物たちと空間を共有する作法を失ったのである。「村の狗」としかいいようのない　X　は知らないあいだに絶え、私有された飼い犬と対照的な「のら犬」という残余概念が誕生した。それは、われわれの「だらしのない放牧」の終焉を意味する。もちろん、なぜそのような喪失と終焉の歴史を、われわれが選んだのかについては、それぞれの素材に即してもういちどこまかく考察しなおす必要があるが、マクロには、動物たちの排除を近代の風景観念の特質のひとつととらえてよかろう。動物園とペットに「　C　」る、動物たちの隔離とカンシ②の誕生は、われわれのなかでとりむすばれている関係性の変容の一結果だったのである。

【　ハ　】、動物排除の批判からすぐに、この風景論がエコロジー主義的な保護と神聖視のそれだと断じてはならない。エコロジー主義のまなざしは、鳥や獣といった人間以外の生物の存在を「自然」と等置し、「自然に対するイケイ③（とその喪失）」というイデオロギー批判のなかに、現状の観察をとけこませてしまう。そんな自然の物神化（注4）は、むしろ避けられるべき解読法であろう。そうした解読ばかりを先鋭化させる「エコロジー」のイデオロギー的早急さは、かえって危険な固定観念をともなうのっぺらぼうの一般化にすぎない。

【　ニ　】、風景ということばであらわされる環境の切りとりを、生活技術のひとつとして、環境との対話＝コミュニケーションの実態からとらえなおそうとした、その解読の方向こそ、『明治大正史世相篇』第四章「風光推移」の構成が、今後に開いた可能性だからである。

【　ホ　】、この風景論は趣味への疎外を批判し、ペットや盆栽が、あるいは登山趣味が切りとる自然感受の固定化を批判したのである。④カイコン事業が生活空間を押しひろげ、武器の革新による狩猟制度の近世や、写真などの視覚技術の変容をうちに含む記述制度の近代が、われわれと鳥獣との関係をまばらな、そして「　D　」たものにしてしまった。その質的な変容の内実こそが、問われねばならないだろう。「人と動物とのあいだがらがやや疎遠になって、かえってその噂は高くなった」。

「珍奇を賞する気もち」と「屋外の凡庸」に対する軽蔑とが、自然を感受する感受性のなかに、しだいしだいに浸透してくる。も

うすでに「最近の飼い鳥養殖にいたっては、よほど蓄音機や絹織物の製造に近い」人工の意図的な技芸なのであって、ペット愛護や観葉植物のハンラン⑤を、エコロジー的な感性や自然回帰の欲望の本源性において解読する議論は、［　E　］たロマン主義にすぎない。そればかりか、意図せざる無用な一般化を用意してしまう。

もういちどまとめよう。この風景論は、動物や植物たちとの関係性のありかたを重要な論点にすえようとした(a)。草や花、樹木や鳥獣におよんだ(b)記述が、虫や海洋の生物などには必ずしも厚くないことは、その観察のさしあたりの限界として留意(c)しておく必要があるかもしれない。

しかし、そうした生き物たちの欠落を批判し、彼らとわれわれとの関係のありかたを、あえて風景概念の骨格として選び、その変容を記述(d)しなおそうとした。そうした運動を内在させ(e)ていたことこそ、ありうべき批判力の内実を形成する。自然の分離と物神化・均質化を、関係論的な解読において批判するこの風景論は、おそらくその可能性の深層において、エコロジカルである。

（佐藤健二『風景の生産・風景の解放』による）

注1　『明治大正史世相篇』――一九三一年一月、朝日新聞社刊。著者は民俗学者の柳田國男（一八七五―一九六二）。

注2　志賀重昂――一八六三―一九二七。思想家、政治家。主著に『日本風景論』（一八九四年刊）がある。

注3　この歴史社会学者――柳田國男を指す。

注4　物神化――あるものを、その本来の価値以上に崇めること。

問一　波線部①～⑤のカタカナの部分を、適切な漢字に改めなさい。〔解答用紙B〕

問二　［　X　］に入る「同じような種類のものが含まれる分類範囲」という意味の外来語をカタカナ五字以内で記しなさい。〔解答用紙B〕

問三　［　A　］～［　E　］に入る語としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

1　裏がえされ　　2　解体され　　3　切り離され
4　象徴され　　5　とりざたされ　　6　取りだされ

問四　【　イ　】～【　ホ　】に入る語句としてもっとも適切なものを、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

1　しかし　　2　すなわち　　3　そうではなく
4　たとえば　　5　であればこそ　　6　むろん

問五　傍線部(a)～(e)の動詞の活用の種類と活用形を、それぞれ次の中から選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

1　五段活用・未然形　　2　五段活用・連用形　　3　下一段活用・未然形
4　下一段活用・連用形　　5　サ行変格活用・未然形　　6　サ行変格活用・連用形

問六　問題文の内容に合致するものを、次の中から二つ選んで、番号をマークしなさい。〔解答用紙A〕

1　近代社会では人間が動物に対して主体的に関与する機会が失われた。
2　自然を敬う人間の気持ちの喪失が近代の急速な山村開発をもたらした。
3　野生の鳥や獣の減少が近代の風景概念における動物排除の原因である。
4　生活様式の変化に伴い自然が保護すべき対象と見なされるようになった。
5　近代社会は生活に不可欠な存在として自然を対象化する視線を失った。
6　自然と人間との関係が変化した結果、エコロジー主義が生み出された。

問七　『明治大正史世相篇』で展開された柳田國男の風景論のどのような点が近代に対する批判になりうるのか。問題文の内容をふまえ、二五字～三五字で説明しなさい。その際、「自然」「生活空間」の二語を必ず用いること。〔解答用紙B〕